

福岡県	久留米市	NPO法人ウェブスポーツクラブ21西国分
-----	------	----------------------

予算額

14,363,212 円

地域課題解決に向けた取組

取組の名称	スポーツフェスタ				
趣旨・目的	手軽に楽しめるニュースポーツや集団競技を、地域のみなさんに家族や仲間と体験していただく。				
内容	家族や仲間での参加を呼び掛け5人～6人の団体戦とし、アジャタ(玉入れ)・輪投げ・大縄跳び・横百足競走などで得点を競った。				
対象者	西国分校区・諏訪中学校校区住民	参加人数	70名	実施回数	1
1 効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校低学年から高齢者まで一緒に参加できるような内容の種目を選択した。 ・ 当日、ぶっつけ本番でも大丈夫な種目にすることで当日の飛入り参加も見込んだ。 ・ 参加人数に幅を持たせることで参加し易い環境づくりに配慮した。 ・ 雨でも対応できるような種目の選択・競技内容とした。 ・ 地域のスポーツ少年団や保護者への協力を依頼した。 				
成果	<p>日頃経験しないニュースポーツを団体で競え合えたことはニュースポーツへの関心の高まりと仲間との結束に大きな成果をもたらしたと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイムを競うアジャタ(競技玉入れ)では投げ方を工夫しながら数回の挑戦を行うチームが多かった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数を競う公式輪投げはなかなか点数が上がらない難しを感じながらも互いに投げ方のアドバイスをしながら行うことが出来ていた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団縄跳びの連続飛びと横百足競争では、いずれもチームの結束力が必要で何度も何度も練習し互いの呼吸を合わせながら挑戦している姿がとても印象的であった。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ お手伝いをいただいたボランティアの保護者や地域の皆さんの飛入り参加をお願いしたのだが残念ながら今回参加者に成人チームがなかった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加の地域を広げ広い場所での開催を目指すとともに、成人やファミリーでの参加が気軽に出来るよう配慮していきたい。 				

	取組の名称	子どもの遊び場づくり支援				
	趣旨・目的	子供たちの発想と大人の発想の中からできるだけ道具を使わないでできる遊びや、子供たちが安全・安心に遊べる場つくっていく。 そこには誰もが参加できる環境にして行き、身体を動かすことからスポーツへ繋がるよう取り組むとともに、スポーツが好きになるように促していく。				
	内容	屋外での取り組みは近場の公園やウォーキングを等が行える池の周囲で鬼ごっこをしたり、木に登ったり、木の実を集めたり、自分たちで学年や年齢を考え距離を変えながら池の周りをリレーをして走った。屋内では長縄でなわとび、長い棒やフープ等を使用して自分たちで工夫した障害走を行ったり、ドッジビーを全員で行ったりした。				
	対象者	幼稚園年中～小学校3年生	参加人数/回	6～8人/回	実施回数	6
2	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃よく使っているいろいろなボールは使わないようにすることと、身の回りにあるものをどのような使い方をすれば遊び道具に変えられるかヒントを与え、発想の転換が行いやすいように配慮した。 ・ 遊びのルールも自分たちで決め、柔軟に変えていけるようし、遊びの幅が出来るように取組んだ。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加した子どもたちは元気に走り回ったり、飛び回ったりとても楽しく参加していた。特に幼稚園の子どもたちには年上のお兄さんお姉さんと遊べるのがとても楽しそうでいつもニコニコした笑顔がみられていた。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼びかけ当初の反応は特に小さいお子さんをお持ちに保護者の方々に「とても良い企画で是非参加させたい」との声をいただいていたが一つにインフルエンザ等の風邪が流行り始め学級閉鎖等があったことで参加者が減ってしまった。 ・ 毎週土曜日の午後と言うのが小さいお子さんの場合送迎等の関係も含めて難しいとのことであった。今後それらの点を改良できるよう暖か時期や曜日、時間の設定等に工夫をしていきたい。 				

	取組の名称	アンケート調査			
	趣旨・目的	総合型が始まって10年を経過しての地域の総合型クラブへの意識調査を行う。			
	内容	スポーツ・健康に関する思いや考え 要望・希望等を無記名式でアンケートを行う。			
	対象者	久留米市内の総合型地域スポーツクラブがある地域の方々・公共施設(体育館等)	参加人数/回	配布12,000回答300	実施回数 1
3	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方にご意見を求めるために総合型クラブ以外の地域の方やスポーツ施設等を利用させておられる方にも協力いただいた。 配布先のスタッフのみなさんや行政の関係者にも多くのご協力を得る事ができた。 			
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 住民のみなさんへの総合型クラブへの認識・認知度は名前は知っているが具体的に何が目標で何をおこなっているのかまだまだ理解されていないことがわかった。特に行政が行っているのか、地域コミュニティーが行っているものなのかよく見えないとの回答が多かった。 健康やスポーツには大変関心が強いが行う場所や時間が限られているとなかなか参加しづらいところがあるとの回答も受けた。具体的な要望としては高齢者の方の将来役立つ運動の場の設置やお手軽に運動できる場所や指導者が欲しいとの回答があった。 子どもたちに対してはいろいろなことを経験させてあげたいが時間的な制約と費用面での負担が保護者側にはあることがわかった。その中で小学校の体育時間のサポートや中学校部活に関する意見があり、小学校でもっと教えて欲しいとか、部活の指導を充実させてほしいとの意見もあった。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> これからの総合型地域スポーツクラブがもっと積極的にアピールをしていくことと利用者のニーズを把握しながら会員獲得や利用者の増加を目指していくことが大切であると改めて感じた。これにより拠点クラブとして他のクラブをどう支援していくのか、またどうやって共同で活動していけるのか大きな課題をいただいたと感じている。 総合型クラブだけでは難しいことも行政と連携したり他のクラブや団体との連携も視野に入れていく必要がある、取組みは始まっているがもっと違う部署や団体と協力しながら活動できるような組織作りも必要ではないかと感じた。 			

	取組の名称	「スポンジテニス」&「スポレック」交流大会in久留米2012			
	趣旨・目的	多世代で行うことができる「スポレック」・「スポンジテニス」をスポーツ参加の良い機会となるようにし、楽しみから競技へと興味関心を持ってもらえるようにする。			
	内容	昭和56年から新潟糸魚川で行われている「スポレック」と平成10年頃から久留米でスタートした「スポンジテニス」をそれぞれの愛好家が久留米に集まっていたいただき交流大会を行った。			
	対象者	留米市及び近郊のスポンジテニス愛好家 北海道・新潟・静岡スポレック愛好家 その他興味関心のあるの方々	参加人数/回	40人/回	実施回数 1回
4	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの競技でコートの広さは変わらないもののネットの高さやボール・使用するラケットに違いがあるところを互いに検証し、今後行いやすいネットの高さやボールの種類、ラケット等について意見交換を行った。 ルールについても今後よりよいものを模索していけるようにし、多くの方が楽しめる大会に発展していくよう取組んだ。 			
	成果	<ul style="list-style-type: none"> スポンジテニス・スポレック共にバドミントンコートを利用してのミニテニス形式であるが 使用するラケットやボール・ネットの高さの違いがあり、なかなか交流をすることができないでいたのであるが今回のこの計画により同じニュースポーツ、同じ屋内競技。更に何れも参加の皆さんが楽しいだけだったり多くの方と交流ができるようになれば良いとの同じ視点に立った時 それぞれの競技を互いが楽しむことも交流の輪を広げられたり、総合型クラブとして今後、種目を増やすことや興味を持っていただけることに十分つながることがわかった。 何れこの交流大会が全国規模になり大きな大会として発展していけそうな期待も膨らんだことは大きな成果になったと思われる。 			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 類似した競技をされている地域やチームへの呼びかけをし、多くの参加者を募ることができるようにすることである。 			

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	1 校
コーディネーター総数	4 名

◆効果を高めるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none">・ 体育も小学校教育の大切な授業の一環である事を指導者に認識していただくために、まず、小学校体育の学習指導要領の内容を理解していただき、各学年の目標や目的について学習会を行った。
<ul style="list-style-type: none">・ 派遣する学校側の校長先生らと今回の派遣について協議し、互いの理解を深めるよう努めた。
<ul style="list-style-type: none">・ コーディネーターの役割として学校側をお願いしたことは、次のような内容である。<ol style="list-style-type: none">1) 授業はあくまでも担任の先生が行うことであり、コーディネーターが主とにならないようお願いしたい。2) 用具の準備片づけの補助は行うが、用具係の様な役割にならないようにしていただきたい。3) 実技だけでなく安全面や保健についても指導を行っていく。4) 受入れが可能ならば給食の時間等にも入らせていただく準備はしている。(食育の指導)
<ul style="list-style-type: none">・ 指導者は過去に子供の指導経験があり且、指導資格を持っている者を派遣するようにした。
<ul style="list-style-type: none">・ 複数のクラスが一度に授業を行う時には内容を見ながら指導に入るようにしていった。

◆成果と課題

〔成果〕

<ul style="list-style-type: none">・ 地元の学校ではあるが初の試みと大規模校であること。学校側も指導者側も当初かなりの緊張感を持ってサポートをすることになったが1ヶ月を過ぎたくらいから徐々に子どもたちとの会話も先生方との調整もできるようになってきた。これまで子どもたち活動にはひとりの教師では限界があったところをサポートをすることで活動の機会が数段多くなったことは子どもたちにとっては練習の機会も増え、挑戦意欲も高まってきたことは大変意義あることとなった。また、指導者の目も増えたことやアドバイスをすることで子どもたちひとりひとりに細かい指導ができるようになったため、子どもたちの運動への安心感も高まったと感じている。
<ul style="list-style-type: none">・ 活動のお手本を見せることができたことで子どもたちがより具体的にイメージできるようにもなったことは先生方も授業をスムーズに進めていくことができたと思われる。先生方からは子どもたちが元気になりました・明るくなりました・体育を更に楽しめるようになりましたとの感想をいただいた。

〔課題〕

<ul style="list-style-type: none">・ 基本的に授業のサポートを行うのであるが、生徒指導的なところには一切関わっていない。本来ならば授業が成立できるようにすることも私どもの役割のひとつとは思われるが教師や担任を差し置いて指導するのは子どもたちとの更なる信頼関係が構築されないと難しい問題であると感じた。
<ul style="list-style-type: none">・ 中休みや昼休みに子どもたちと活動できるようグラウンドへ出向いて行ってはいたが特定の子どもたちとのつながりはできて多くの子供たちとの交流は難しかった。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 今回の事業で行った「小学校体育活動等サポート事業」と「地域課題解決事業」は何れもこれからのクラブ運営に大きな影響を与えてくれるものと感じられた。特に「小学校体育活動等のサポート事業」は子どもたちの運動やスポーツに対する関心や意欲を高めていく上で非常に意義深いものだと感じている。
- ・ 子どもたちはこれまで以上に身体を動かすことの楽しさや出来ることへの達成感、難しいことへの挑戦の克服感、更にはより高い目標への挑戦意欲など、体育の学習がとても楽しく感じられるようになったと感じている。サポートの期間が短かったため数値的な評価は難しいところであるが、子どもたちのいきいきした態度や笑顔は体育の学習への興味・関心・意欲が高まったものだと感じている。
- ・ 子どもたちへの指導は単に技術指導だけに留まらず、励ましや賞賛するなど些細なことでもたくさん褒めてあげられるように配慮したことで子どもたちとのコミュニケーションも高まり、よりレベルの高いサポートができたものだと感じている。
- ・ 「地域課題解決」は、総合型クラブの今後の発展や問題解決。総合型クラブ未設置地域へのアピール、異なる種目のコラボレーションでより多くの人を楽しめる場の設定、地域間交流などこれからの総合型クラブの方向性を図る上で大変貴重な事業となったと感じている。
- ・ 今後拠点クラブとしての活動の方向性や支援の方法など新たな課題も見出せたことで自分たちのクラブもさらに力をつけていかなければならないと強く感じる事ができた。

〔課題〕

- ・ 「小学校体育活動等サポート事業」では今後、要望が増えた際の対応の方法やより内容の濃い指導ができるための研修や協議が学校側と一緒にできればよいと感じた。
- ・ 学校ごとに温度差があり、受入れに差があるため多くの子供たちに支援できる環境にはない。教育委員会や校長会への働き掛けも行っているがなかなか進まないところである。
- ・ 一番の課題はこの事業が終了した後の対策を行政と協議し継続が出来るかどうかということである。学校側の要望があり、人材もいるのに予算が無く全くのボランティア活動になってしまうよう学校へも行政へも今から働きかけていきたい。小学校にはこれまでにTTでの学力支援がされてきており予算化もされているのでそれを体育活動で出来るようになることを望むがこれまでのTTは教育委員会や学校側が人材を派遣していたが体育に関しては総合型クラブから派遣出来るようにしていき、将来的にはこの事業での目標にも掲げられているように中学校部活の支援までも視野に入れていきたい。
- ・ 「地域課題解決事業」についてはそれぞれのクラブや地域と連携・協力して行っているが、広報宣伝の工夫が必要であり、運動していいない方々の参加をいかに増やしていくかが鍵になりそうだと感じた。このことは年齢に関係なく行政の関係部署でも課題となっていることである。
- ・ 何れの事業もサポートしていただける人材の確保にかなりの時間をようするが何でも出来る方にお手伝いいただければ非常に力になるが若い世代の指導者を育成し育てていくことへも力を注ぎたい。
- ・ 拠点クラブとして今後の在り方を県や市等の行政ともしっかり話し合いながら進めていきたい。特に総合型クラブで言われている「人・物・金」がバランスよくあって総合型クラブとして拠点クラブとして継続していけるものであることを踏まえるともう一度原点に立ち返り本来のミッションを見直しながら進めていく必要があると感じる。
- ・ 来年度はトップアスリート派遣も視野に入れ検討していきたい
- ・ 終わりにこの事業が出来ることなら平成26年まで継続されるとより一層充実した内容のものが確立され、その実績をもとに地方行政へ働きかけがしやすくなると感じているので是非是非前向きなご検討をお願いしたい。